

「平成27年度 第1回県政モニターアンケート調査」 調査結果（概要）

県政モニターの皆様に対して、県政運営の参考とするために下記のとおりアンケート調査を行いました。

- 1 調査方法
- (1) 調査地域

: 長野県全域

(2) 調査対象者

: 県政モニター(県内在住の20歳以上の男女)
1, 204人(無作為抽出1, 108人、公募96人)
(現在の県政モニターは平成26年7月から登録)

(3) 調査方法

: 郵送又はインターネット

(4) 調査期間

: 平成27年5月29日(金)～平成27年6月11日(木)

- 2 調査内容
- 次の3項目について21問を設定
- (1) 人権に関する意識について

(2) 自然公園について

(3) 統一地方選挙における選挙啓発について

- 3 回収状況
- 回収数 841人（回収率 69. 9%）

回答者の内訳

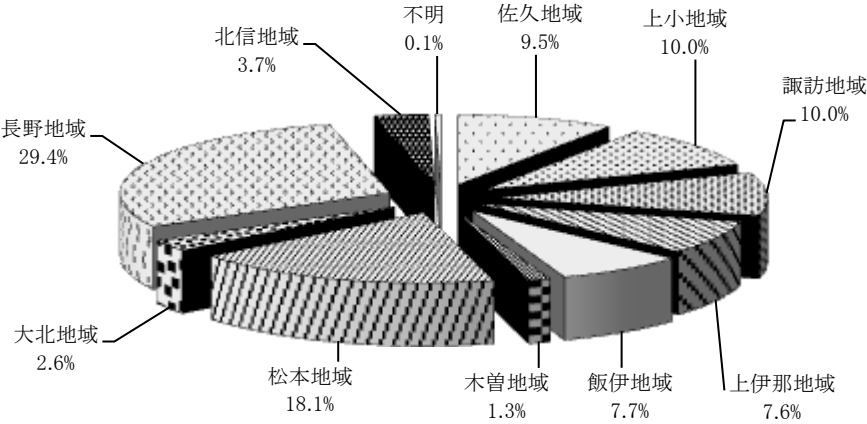
【男女別と年代別】

	総 数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	不明
総 数	841	33	88	151	217	255	96	1
	100.0%	3.9%	10.5%	18.0%	25.8%	30.3%	11.4%	0.1%
	男 性	14	39	80	129	155	58	－
		56.5%	1.7%	4.6%	9.5%	15.3%	6.9%	－
女 性	365	19	49	71	88	100	38	－
	43.4%	2.3%	5.8%	8.4%	10.5%	11.9%	4.5%	－
不 明	1	－	－	－	－	－	－	1
	0.1%	－	－	－	－	－	－	0.1%

※ 割合(%)はすべて、総数(n=841)に対する割合

【地域別】

	総 数	佐 久	上 小	諏 訪	上伊那	飯 伊	木 曽	松 本	大 北	長 野	北 信	不 明
回答者数	841	80	84	84	64	65	11	152	22	247	31	1
	100.0%	9.5%	10.0%	10.0%	7.6%	7.7%	1.3%	18.1%	2.6%	29.4%	3.7%	0.1%



1 人権に関する意識について

問1 人権を尊重する意識の定着について

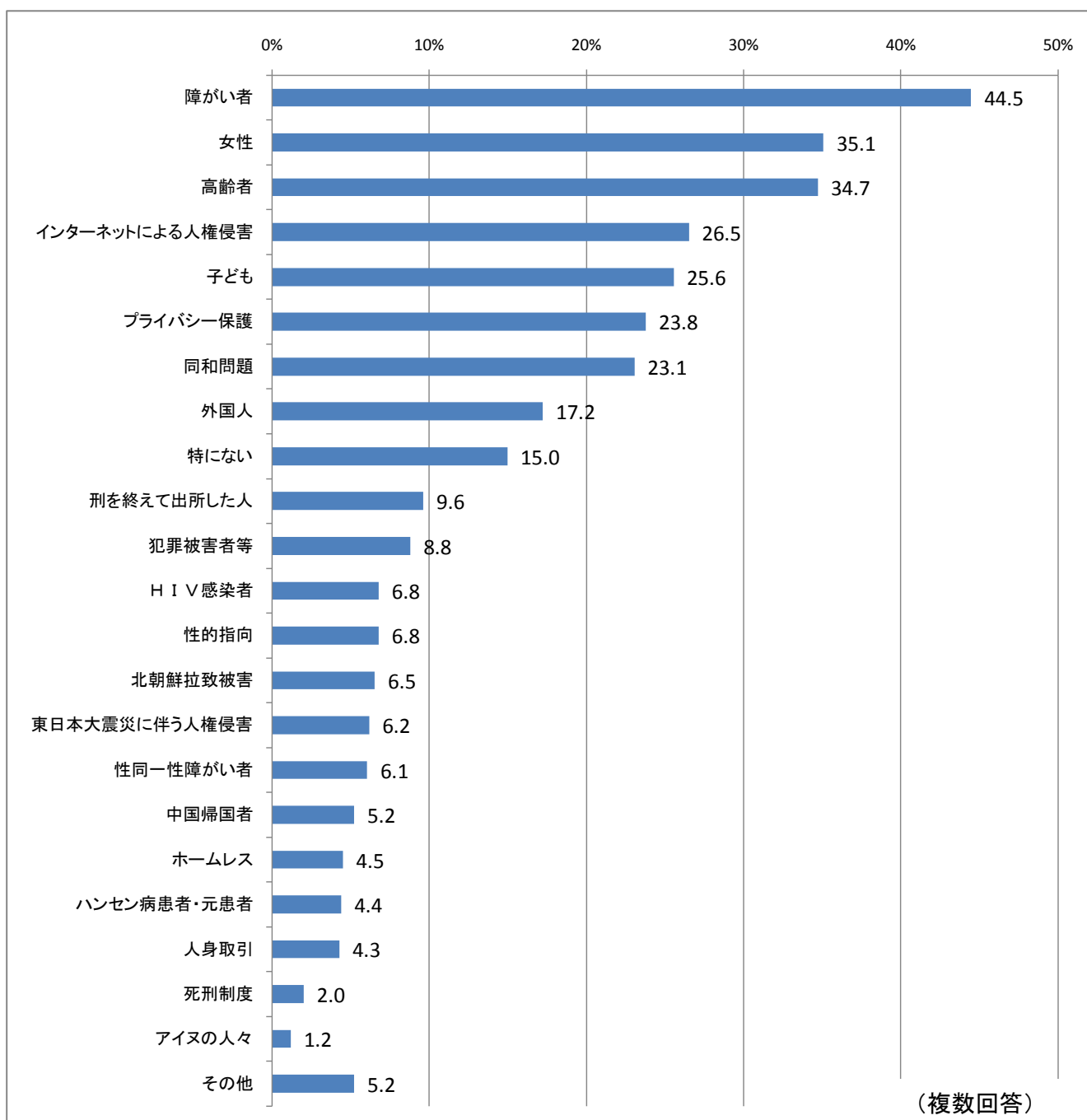
■「長野県は人権を尊重する意識が定着した住みよい県だと思う」と「少しそう思う」を合わせて5割超

①「そう思う」	18.2 %
②「少しそう思う」	36.3 %
③「そうは思わない」	6.4 %
④「どちらともいえない」	38.1 %
⑤ 無回答	1.1 %

(単数回答)

問2 長野県で起きていると思う人権問題

■「障がい者に関すること」が4割超、次いで「女性に関すること」、「高齢者に関すること」が3割超



2 自然公園について

問3 自然公園等の認知度

■「国立公園」が約9割、「国定公園」が7割超、「県立自然公園」が5割弱

①「国立公園」	87.5 %
②「国定公園」	75.7 %
③「県立自然公園」	47.3 %
④「ジオパーク」	47.1 %
⑤「県自然環境保全地域」	32.7 %
⑥「ユネスコエコパーク」	19.5 %
⑦「県郷土環境保全地域」	17.0 %
⑧「わからない」	3.4 %
⑨「全てきいたことがない」	1.9 %

(複数回答)

問4 自然公園等で関心のある所

■「国立公園」が4割を超え、「県立自然公園」が約4割、「国定公園」が3割超

①「国立公園」	45.5 %
②「県立自然公園」	38.0 %
③「国定公園」	35.9 %
④「ジオパーク」	30.3 %
⑤「県郷土環境保全地域」	29.0 %
⑥「県自然環境保全地域」	26.6 %
⑦「ユネスコエコパーク」	25.3 %
⑧「行きたいところがない」	6.5 %
⑨「わからない」	8.4 %

(複数回答)

問5 県立自然公園の利用度

■「行ったことがある」と「行ったことがないが、行ってみたい」を合わせて7割弱

①「行ったことがある」	51.5 %
②「行ったことがないが、行ってみたい」	15.9 %
③「行ったことがない」	27.1 %
④「わからない」	4.4 %
⑤ 無回答	1.1 %

(単数回答)

(問5で「いったことがある」又は「行ってみたい」と回答した方)

問6 各県立自然公園の利用度

■「中央アルプス県立公園」が7割弱、「聖山高原県立公園」と「御岳県立公園」が約5割

①「中央アルプス県立公園」	66.7 %
②「聖高原県立公園」	48.7 %
③「御岳県立公園」	48.1 %
④「三峰川水系県立公園」	45.5 %
⑤「塩嶺王城県立公園」	33.0 %
⑥「天竜小渋水系県立公園」	30.5 %

(複数回答)

(問5で「いったことがある」又は「行ってみたいと」と回答した方)

問7 県立自然公園の利用方法

■「自然の風景を楽しみながら自然散策」が約8割、「登山、ハイキング、森林浴など」が約5割

①「自然の風景を楽しみながら自然散策」	79.7 %
②「登山、ハイキング、森林浴など」	51.7 %
③「日常からの解放」	27.5 %
ほか（複数回答）	

問8 県立自然公園に行く際に必要な情報

■「自然の美しい景色が見られる場所についての情報」が約7割、「自然公園までの交通に関する情報」が約6割

①「自然の美しい景色が見られる場所についての情報」	67.8 %
②「自然公園までの交通に関する情報」	57.9 %
③「遊歩道やハイキングコースなどに関する情報」	45.8 %
ほか（複数回答）	

問9 県立自然公園の印象

■「優れた自然景観を守るための地域」が約7割、「貴重な動植物の生息地を保護する地域」が約6割

①「優れた自然景観を守るための地域」	70.2 %
②「貴重な動植物の生息地を保護する地域」	58.1 %
③「トレッキング、キャンプなど野外レクリエーション、自然とのふれいの場として活用する地域」	35.1 %
ほか（複数回答）	

問10 県立自然公園の今後のあり方

■「自然保護をしたり、自然公園利用者に適切な利用を呼び掛けるボランティアを養成し、増やすべき」と「自然との調和を図りつつ、ある程度の観光開発も行うべき」が約4割

①「自然保護をしたり、自然公園利用者に適切な利用を呼び掛けるボランティアを養成し、増やすべき」	38.4 %
②「自然との調和を図りつつ、ある程度の観光開発も行うべき」	37.5 %
③「自然を守るために、これ以上の観光開発（車道、ホテル、スキー場など）を防止すべき」	35.9 %
ほか（複数回答）	

問11 県立自然公園への訪問者を増やすための方策

■「広報媒体により県立自然公園の情報を発信する」が約8割

①「広報媒体（インターネット、広報誌など）により県立自然公園の情報を発信する」	79.1 %
②「それぞれの県立自然公園の案内のパンフレット、ガイドブック等を作成してPRする」	48.4 %
③「県立自然公園の保護に関する部分と利用ができる部分に分かる地図を作成する」	34.4 %
ほか（複数回答）	

問12 自然公園内の適正利用を推進するためのルールづくり(好ましくない行為)

■「野生動物への餌やり」が約8割、「トイレ以外での排泄(トイレットペーパーの使用)」と「石などの持ち帰りや動植物の採取」が約7割

①「野生動物への餌やり」	79.5 %
②「トイレ以外での排泄 (トイレットペーパーの使用) 」	68.8 %
③「石などの持ち帰りや動植物の採取」	67.7 %
ほか (複数回答)	

問13 自然公園内の登山道の整備支援に関すること

■「登山道は利用するための最低限の整備がよい」が8割弱、「トイレの整備」と「案内板などの標識の整備」が約7割

①「登山道は利用するための最低限の整備が良い」	76.2 %
②「トイレの整備」	69.1 %
③「案内板などの標識の整備」	68.0 %
ほか (複数回答)	

問14 「生物多様性」の言葉の意味の認知度

■「言葉の意味を知っている」と「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」を合わせて約7割

①「言葉の意味を知っている」	27.8 %
②「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」	44.2 %
③「聞いたこともない」	20.2 %
④「わからない」	6.4 %
⑤ 無回答	1.3 %
(単数回答)	

問15 生物多様性の保全のための取組について

■「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する」が約5割

①「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する」	47.8 %
②「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進める」	45.8 %
③「人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない」	1.4 %
④「その他」	1.7 %
⑤「わからない」	2.4 %
⑥ 無回答	1.0 %
(単数回答)	

3 統一地方選挙における選挙啓発について

問16 国や地方の政治に対する関心

■「非常に関心を持っている」、「多少は関心をもっている」を合わせて9割

① 「非常に関心を持っている」	32.0 %
② 「多少は関心を持っている」	58.0 %
③ 「あまり関心を持っていない」	7.7 %
④ 「全く関心を持っていない」	1.0 %

(単数回答)

問17 4月12日執行県議会議員選挙への投票参加

■「投票した」は約7割、「投票しなかった」は約1割

① 投票した	70.4 %
② 投票しなかった	12.5 %
③ 無投票だった	16.6 %

(単数回答)

(問17で「投票をしなかった」と回答した方)

問18 投票しなかった理由

■「候補者の人物像や政策などが、よくわからなかったから」が約4割、「仕事や用事があったから」、「適当な候補者がいなかったから」がそれぞれ約3割

① 「候補者の人物像や政策などが、よくわからなかったから」	41.9 %
② 「仕事や用事があったから」	31.4 %
③ 「適当な候補者がいなかったから」	31.4 %

ほか (複数回答)

問19 選挙が行われることの認識手段

■「テレビ・ラジオの報道」が約8割、「新聞報道」が7割超、「ポスター掲示場に貼られた候補者のポスター」が約5割

① 「テレビ・ラジオの報道」	82.4 %
② 「新聞報道」	75.4 %
③ 「ポスター掲示場に貼られた候補者のポスター」	48.8 %
④ 「候補者の選挙運動を見聞きして」	38.2 %
⑤ 「選挙公報」	37.0 %
⑥ 「選挙管理委員会が行う啓発」	29.3 %

ほか (複数回答)

問20 県や市町村が行った選挙啓発の認知度

■「テレビ・ラジオCM」が約7割、「県や市町村の広報誌等」が5割超、「広報車による呼びかけ」が4割超

① 「テレビ・ラジオCM」	68.3 %
② 「県や市町村の広報誌等」	53.2 %
③ 「広報車による呼びかけ」	44.8 %
④ 「啓発ポスター」	43.0 %
⑤ 「県や市町村庁舎等での、たれ幕やのぼり旗」	21.1 %

ほか (複数回答)

問21 投票率向上の取組

■「学校教育で政治や選挙に関する教育を充実する」が5割超、「国、県、市町村が選挙の意義や重要性について、もっと積極的にPRする」が約5割、「投票所を駅やショッピングセンターなど、もっと行きやすい場所に設置する」が約4割

- | | |
|--|----------|
| ① 「学校教育で政治や選挙に関する教育を充実する」 | 55.5 % |
| ② 「国、県、市町村が選挙の意義や重要性について、もっと積極的にPRする」 | 48.3 % |
| ③ 「投票所を駅やショッピングセンターなど、もっと行きやすい場所に設置する」 | 40.7 % |
| ④ 「インターネットなどを利用して投票所に行かなくても投票できるようにする」 | 30.4 % |
| ⑤ 「若者グループや民間団体が主体となって投票参加の呼びかけを行う」 | 20.6 % |
| | ほか（複数回答） |